

【症例報告】

肺腺癌術後 17 年目で再発したと考えられた髄膜癌腫症の 1 例

【著者名と会員番号】

伊藤 沙妃，藤原 美穂，工藤 健一郎，光宗 翔，岩本 佳隆，藤原 慶一

独立行政法人国立病院機構岡山医療センター 呼吸器内科

Corresponding author: 藤原 美穂

【要旨】

症例は69歳女性。X-17年に左下葉肺腺癌に対して左下葉切除術を施行した（pStageIA）。X年に見当識障害や歩行障害が出現し、頭部造影MRIから髄膜炎が疑われた。腰椎穿刺を施行し髄液細胞診から上皮性悪性腫瘍による髄膜癌腫症が疑われた。CEAも高値であり、手術検体と髄液からEGFR deletion19を検出し、術後再発としての髄膜癌腫症と診断した。オシメルチニブ投与後、神経症状とCEA高値は改善した。肺腺癌術後17年目に髄膜癌腫症で再発を認めた非常に稀な症例と考えられたため報告する。

【キーワード】

肺腺癌、髄膜癌腫症、再発、術後 17 年目、EGFR 遺伝子変異

Lung adenocarcinoma, Leptomeningeal metastases,
Postoperative recurrence, 17 years after surgery, EGFR
gene mutation

【短縮タイトル】

術後 17 年目に髄膜癌腫症で再発した肺腺癌の一例